



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



住宅部門

事例 03

明日の家

よみがえった築150年の古民家
昔ながらの暮らしや文化を伝えたい



10年以上空き家になっていた受賞者の祖父母宅。明治5年頃の建築というこの古民家を取り壊そうとしたところ、天井裏から立派な梁が現れた。受賞者の父が「智頭町の歴史を語る家にしよう」と発案。改修途中で病に倒れたが、娘である受賞者が引き継ぎ、“暮らすように泊まる”民泊施設として生まれ変わった。

柱を残して昔ながらの間取りはそのままに全面改装。ゲストが出入りしやすいよう、水回り側にあった玄関を思い切って和室側に移動。ゆえに、玄関から一気に4室の畳の間が広がる。上を見上れば小屋組の大きな梁。古き良き日本家屋の情緒にあふれ、心がホッと落ち着く。キッチン・洗面所・バス・トイレは今時の若者でも使いやすいよう改築。長期滞在やワーケーションにも最適だ。

また、智頭杉を使用したウッドデッキを新設、薪でお釜ご飯を炊いて食べたり、夜には星空を見ながらBBQを楽しんだり。智頭町の特徴である山林と自然を体験できるプランを用意しており、全国各地から年間約400人が訪れているとか。親子3世代の想いをのせたゲストハウスは、明日を生きる次世代へ郷土の魅力を伝えている。

明るく広々とした4つの畳の間。平屋建てながら、天井を吹き抜けにしたことで開放感が増している。空間に浮かぶ佐治和紙の照明灯はまるでぼんぼりのよう。久しぶりに田舎に帰ってきたような懐かしい気持ちになり、「ただいま」と言いたくなる。



大きな梁を使った小屋組。この家の歴史を物語っている。



玄関を入ってすぐの和室。



この地域の暮らしや文化を知ってもらいたいと、和室の一角に関連著書や歴史本、工芸品などを置いている。心地良い畳の上に腰を落ち着かせ、ゆっくりと読書したくなる空間だ。





(写真上) 玄関前の庭だった部分に新設した洗面所。建具を再利用し、和の雰囲気に統一している。

(写真左下) 一番奥にはこぢんまりとした板の間も。

(写真右下) キッチンには民俗文化を感じる鳥取の陶磁器を用意。

[DATA]

- 【所在地】八頭郡智頭町 【構造】木造平屋建て 【築年月】明治5年頃
- 【改修後の用途】一棟貸しのゲストハウス(民泊施設)
- 【間取り構成】個室5室(和室4室・板の間1室)、リビング、ダイニング、キッチン、
物置スペース、トイレ・風呂
- 【改修期間】2018年5月～2018年11月
- 【改修費用】約800万円
- 【施工者】有限会社 中村建装

